

2015年度 学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか					
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的（建学の精神、教育理念、使命）を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	学部間共通外国語教育運営委員会は、「権利自由」「独立自治」さらには「世界へ『個』を強め、世界をつなぎ、未来へ」という本学の教育理念に基づき、「真の国際感覚」を持った「個」を育成するために、学部を超えて横断的に履修できる会話科目を中心とした外国語科目を設置していく。 本委員会の目的は、明治大学学部間共通外国語教育運営委員会規定では、「明治大学に設置されている全学共通の学部間共通外国語科目における外国語教育の充実とその円滑な運営を図るため、教務部委員会の下に専門部会として、明治大学学部間共通外国語教育運営委員会を置く。」と定めている。				
(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか					
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	理念や目的の適切性について、定期的に検証を行うシステムが十分とは言えないが、次年度の授業計画を策定する際に、設置科目や、設置キャンパス、開講の曜日時限について、委員会において適宜議論し、それらの開講科目が当委員会の理念や目的に対して適切となるように検証している。				

2015年度 学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 2 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか					
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	本委員会の編成については、「全学共通の学部間共通外国語科目における外国語教育の充実とその円滑な運営を図る」という本委員会の目的を達成するために、必ず各学部から2名以上の委員を選出してもらっている。 2015年度は英語種については各学部から1名ずつ・合計10名、ドイツ語種4名、中国語種3名、フランス語種2名、朝鮮語種1名、スペイン語1名の教員がそれぞれ委員として選出された。				
(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか					
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	6月に開催される第2回委員会(2015年6月24日)において自己点検・評価を行った。				

2015年度 学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(1) 付属機関として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか					
a ●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該付属機関の理念・目的を実現するために、教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。【約400字】	明治大学が求める教員像及び教員組織の編制方針に基づき、学部間共通総合講座の講座担当者は、本学教職員に加え、当該分野において、特に優れた知識及び経験を有する学外からの専門家を講師として招聘し、複数の講座においてこれを担当している。「学部間共通総合講座運用内規」及び「2015年度学部間共通総合講座について」において、コーディネーター、講座担当者及び講座開講申請について明記している。 共通語学科目と選択体育実技は学部設置科目であるため、各学部の方針に準ずる。				
(2) 付属機関等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか					
教員の編制方針に沿った教員組織の整備					
a ◎方針と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。【600～800字】	学部間共通総合講座は、学部設置のカリキュラムを基礎としながら、なお学部や文理の枠を越えた学際的講義を学生に積極的に提供することにより、幅広い学問的視野や問題発見能力、判断能力を培うため、「学部間共通総合講座運用内規」に基づいて学外講座担当者を任用しており、整合性がとれている。 共通語学科目と選択体育実技は、学部設置科目のため、各学部によって異なる。				
教員組織を検証する仕組みの整備					
b ●教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。【600～800字】	学部間共通総合講座は、新規の学外講座担当者の任用審査については、コーディネーター所属学部教授会での審議を経て、学部間共通科目運営委員会及び教務部委員会に報告している。 共通語学科目と選択体育実技は、学部設置科目のため、各学部によって異なる。				

2015年度学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 1. 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(1) 共通外国語科目に学習成果を明示しているか					
a ◎修得しておくべき学習成果等を明確にしているか。 【約800字】	修得すべき学習成果は「学部間共通外国語シラバス」(51～53, 80～82, 90～92, 101～103, 118～125頁)に明記している。				
(2) 共通外国語科目の教育課程の編成・実施方針を明示しているか。					
a ◎学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を設定していること。 【約600字】	本委員会の教育目標は、各学部に設置されている外国語科目をサポートしつつ、より多面的な語学能力を向上させ、世界へ『個』を強め、世界をつなぎ、未来へ」という本学の教育理念に基づき、「真の国際感覚」を持った「個」を育成することである。 「各学部に設置されている外国語科目をサポート」とするという教育目標に基づき、「会話・コミュニケーション」に重きを置いた科目を多く設置している。例えば近年では、本学の学部カリキュラムにおいて、初習外国語としての「スペイン語」の科目が充実してきた背景をうけ、学部間共通外国語では「スペイン語ⅠA・ⅠB」「スペイン語ⅡA・ⅡB」に加え、「スペイン語会話ⅠA・ⅠB」「スペイン語会話ⅡA・ⅡB」を設置している。他に夏季・春季の休暇時期には、会話科目の集中講座を実施している。 また、「多面的な語学能力の向上」という教育目標に基づき、学部カリキュラムに設置されていない科目を充実させており、「イタリア語」「アラビア語」「ラテン語」「ギリシア語」などを開講している。 教育課程の編成として、本学は2004年度より半期制を実施しており、学部間共通外国語科目も、大学のルールに則り半期1単位とする授業を設置している。 長期休暇中に開講する集中講座については、2単位を与えている。 科目区分、必修・選択の別については、学生の所属学部・入学年度によって異なるため、「共通外国語シラバス」および「各学部シラバス・便覧」に明示している。単位数も「共通外国語シラバス」で明示している。				
(3) 学習成果や教育課程の編成・実施方針が、大学構成員に周知され、社会に公表されているか					
a ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること。 【約150字】	周知方法と有効性について、新入生に対してはガイダンス期間にシラバスの配付、Oh-o!meiji (明治大学独自のポータルシステム)で学生のポータルページへのお知らせを流すなどし、学部間共通外国語科目について周知しているほか、学部間共通外国語ガイダンスの実施や、GLOBAL NAVI ガイダンスの中で学部間共通外国語の案内をして、周知を行っている。 また、2014年度よりシラバスのPDFデータを作成し、ホームページ上でいつでも閲覧ができるようになっている。 集中講座はVTRを使用した説明会を開催しており、また、各語種科目担当者や委員に授業内で紹介をしてもらうことで、学生に対し受講のきっかけを作っている。 社会への公表方法として、ホームページでの周知のほか、おもに高校生対象に配付している本学ガイドブック内に共通外国語のページを設け明治大学全体の外国語教育と合わせてアピールしている。				

2015年度学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 1. 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) (中長期的対応) H列にあれば記述 H列にあれば記述	
(4) 学習成果や教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●教育目標, 学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり, 責任主体・組織, 権限, 手続を明確にしているか。また, その検証プロセスを適切に機能させ, 改善につなげているか。 【約400字】	委員会執行部においては, 教育目標について議論される機会が多いが, 委員会全体として教育目標の定期的な検証は十分とは言えない。					

2015年度学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(1) 共通外国語科目を体系的に編成しているか						
必要な授業科目の開設状況						
a ◎CPに基づき、必要な授業科目を開設していること。 【600字～800字程度】	学部間共通外国語科目では、4キャンパスで半期合計約120のクラスがある。会話科目を中心に科目を開設しているが、学部によって設置されていないラテン語・ギリシア語・アラビア語等も設置されており、学生に多様な学習機会を提供している。学部横断で設置されている科目であるため、いずれのキャンパスでも受講可能としている。また原則全ての言語で授業の難易度に応じて「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」のグレード制を設け、履修時には能力別クラス編成を行っている。グレード科目に対し「原則として履修順序はグレードの順とする」「異なるグレードを同時に履修することはできない」という履修ルールを設け、科目の順次性を保っている。また、シラバスにおいて各語種のクラスのグレード別に、「現在のレベル」「到達レベル」を明示している。段階的履修を担保している。 「海外語学研修プログラム」(カナダ・ヨーク大学・マクマスター大学、イギリス・シェフィールド大学、ケンブリッジ大学)も学部間共通外国語の単位として認定しており、103名が修了した。 また、夏季休暇中には和泉キャンパスで9日間、「夏期集中講座」を開講し、英会話・ドイツ語会話・フランス語会話・中国語会話の4語種を設置している。春季休暇中には、清里セミナーハウスで合宿型の「英会話春期集中講座」を開講している。2015年度は夏期集中講座では4語種で223名、春期英会話集中講座では71名が修了した。 学生の資格試験受験対策を目的とした科目として、「資格英語」「資格ドイツ語」「資格フランス語」「資格中国語」の4科目を設置しており、留学や就職の際に必要なスキル修得をサポートできる科目を設置している。これらの科目は学部によっては卒業に必要な単位数に算入することが可能である。	年間授業では本科目の履修が困難である学生でも、語学を効率的に身に付けられるように春期・夏期の2回、長期休業中に開講している「集中講座」は学生に好評を得ており、多様な学習の機会の提供をして、短期集中で内容の濃い授業を展開している。	学部間共通外国語科目では、4キャンパスで半期合計約120のクラスがあるが、全学的なカリキュラムの質的向上を図るため、各キャンパスにおける適正なコマ数の設置に向けた検討を行う。	今後は予算削減への対応を考慮しながら、さらに充実した「集中講座」となるよう、開講場所・期間・語種・時期について見直し・検討を行う。	語種代表を中心に、各キャンパスにおける適正なコマ数の設置に向けた検討を行っている。	
教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性						
d ●教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか	「学部間共通外国語」の検証については、「学部間共通外国語教育運営委員会」が検証主体を担い、年4回委員会を開催している。6月の委員会にて、前年度の履修者数等を報告、現状を把握したうえで10月の委員会において、次年度の授業計画(設置コマ数、開設科目等)を検討し、1月の委員会において次年度の授業計画を確定している。	履修者数が減少している中で、現状の履修者数等のデータを基に、適正なコマ数となるよう、2016年度の授業計画の際にコマ数調整を行うことが出来た。		今後は学生のニーズに沿った科目の設定や、授業形態も検討していく。		
(2) 共通外国語科目に相応しい教育を提供しているのか						
教育目標や教育課程の編成・実施方針に沿った教育内容(何を教えているのか)						
a ◎何を教えているのか。どのように教育目標の実現を図っているのか。 【400字程度】	会話・コミュニケーションに重きを置いた科目を多く設置することで「各学部設置されている外国語科目をサポート」という教育目標の実現を図っている。例えば近年では、本学の学部カリキュラムにおいて、初習外国語としての「スペイン語」の科目が充実してきた背景をうけ、学部間共通外国語では「スペイン語ⅠA・ⅠB」「スペイン語ⅡA・ⅡB」に加え「スペイン語会話ⅠA・ⅠB」「スペイン語会話ⅡA・ⅡB」を設置している。また、長期休業中に開講する「夏期・春期集中講座」では、学部の授業がない期間に会話を重点におく科目を学習する機会を提供しており、学部での授業の補完をしている。 また、学部カリキュラムに設置されていない科目を充実させ、「イタリア語」「アラビア語」「ラテン語」「ギリシア語」などを開講することで「多面的な語学能力の向上」という教育目標の実現を図っている。					

2015年度学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 教育方法及び学習方法は適切か						
学生の主体的参加を促す授業方法（学習支援、TAの採用、授業方法の工夫等）						
e ●学生の主体的な学びを促す教育（授業及び授業時間外の学習）を行っているか。 【なし～800字】	全学共通の「学部間共通外国語」の教育方法は、「英会話（夏期海外英語研修）」によるケンブリッジ大学やヨーク大学等への海外で研修を行う形式や、休暇期間に集中して学ぶ「夏期・春期集中講座」がある。「夏期・春期集中講座」は、定員を設定した「少人数授業」による会話科目で構成され、主にネイティブ・スピーカーの講師が担当する。夏期・春期集中の英語講座では、午前中にレベル別授業で「英語を学び」、午後はドラマ、プレゼンテーション、ニュースペーパー等の「Option Class（選択科目）」で「英語で学ぶ」授業が行われる。オプションクラスでは、例えばマルチメディアを活用し、全編英語でのショートムービーを企画・台本作成・撮影まで学生自身が行い、「YouTube」に公開する等の教育方法が取られている。 春季休暇中に行われる本学清里セミナーハウスでの7泊8日の合宿型の「春期集中講座」では、授業時間以外も「日本語禁止」のルールを設け、館内放送もすべて英語であり、学生が英語を使うための仕組みを作っている。講座に同行する大学院学生TA3名が英語による生活・学習全般のサポートをしている。これら科目では「英語を勉強する」のではなく「英語で勉強する」という実践的プログラムを大学独自に開発し、提供している。	夏期集中講座は学内で約2週間、土日を除く毎日、集中的に各語種の会話を学べる講座である。春期集中講座は清里セミナーハウスでの合宿型講座で、授業時間以外でも「日本語禁止」のルールのもと生活を送りながら学ぶ講座である。これらの講座は「気分はプチ留学」というキャッチフレーズの通り、国内にしながら留学体験ができ、これをきっかけに留学を考える学生もあり、学生の主体的な学びを促進している。		学生にニーズに合わせた講座体系（日数や開講場所、授業形態など）の構築を検討していく。		
(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか						
a ●シラバスと授業方法・内容は整合しているか（整合性、シラバスの到達目標の達成度の調査、学習実態の把握）。 【約400字】	共通外国語のシラバス原稿の作成において、統一したフォーマットに加え、執筆要領をもうけている。なお、英語種のシラバスは英語で記載されている。各教員は定期試験または毎回の授業の小テスト等で学生の学習到達度を確認している。 シラバスに基づく授業の展開については、明確には管理ができていないが、「授業評価アンケート」に「シラバスに示されていた学習目標、内容と合致していましたか」といった設問がもうけられており、その結果は担当教員に知らされている。					
(4) 教育成果について定期的に検証し、教育課程や教育内容・方法の改善（授業に関わるFD活動）に結びつけているか						
a ◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約800字】	毎年4月の第一回学部間共通外国語教育運営委員会の後に、委員と学部間共通外国語の担当教員を集め、懇親会を行っている。そこでは、新年度履修手続き等に関する説明や、成績評価に関する説明などを行い、情報共有を行っている。					
b ●授業アンケートを活用して教育課程や教育内容・方法を改善しているか。 【約400字】	夏期・春期集中講座については独自のアンケートをとっており、委員会及び担当講師にフィードバックし次年度の改善に役立てている。また、集中講座で実施するアンケートに講座以外に、学部間共通外国語全般に関する設問を追加し、学部間共通外国語の認知度やイメージを問う他、フリー記述欄を設け学生に感想や要望を記入してもらっている。	集中講座アンケートの内容に基づいて、次年度の講座の実施に役立てている。		集中講座だけでなく、学期中の授業についてもアンケートなどを実施し、学生のニーズをくみ取っていく。		
c ●教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織、権限、手続プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか 【約400字】	集中講座で実施するアンケート結果について、コーディネータ及び担当講師に送付しているほか、委員会でも結果を報告しており、全体で共有している。また、その結果については、次年度の講座コーディネータにも事前に送付し、講座の内容を検討する際の参考にしており、改善につなげている。					

2015年度学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか						
a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】	毎年、自己点検・評価結果をもとに単年度計画書及び長期・中期計画書を作成し、PDCAサイクルをおこなっている。 自己点検・評価運営委員会については、例年6月に開催している第2回学部間共通外国語教育運営委員会が兼務している。自己点検・評価の実施については、委員長を中心とした執行部にて原案をまとめた上で、運営委員会にて審議している。評価報告書等の作成、公表については学部間共通外国語教育運営委員会の自己点検・評価報告書は明治大学ホームページで公表している。 全教員対象の授業評価アンケートを実施しているほか、夏期・春期に開講される集中講座において受講生を対象にアンケートを実施している。結果は講座運営母体である本委員会にて報告されている。					
(2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか						
a ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●PDCAサイクルを回すための、Check (点検・評価) および Action (改善) の具体的内容・工夫	第2回の委員会(2015年6月24日、審議事項4)において、前年度の自己点検・評価報告書を確認しつつ、検証した結果、明確になった総合的教育改革における現在のニーズにあった科目設置等の課題について、年度計画書に反映した。	総合的教育改革における現在のニーズにあった科目設置等の課題について検討し、英語種、中国語種については見直しを図り、次年度授業計画で適正コマ数に調整することが出来た。		総合的教育改革における現在のニーズにあった科目設置等の課題について検討し、全語種について見直しを図り、適正コマ数にの配置を検討していく。		